

令和 6 年度磐南浄化センター  
焼却灰収集運搬処分業務（1 t 当り）単価契約 仕様書

（目的）

第 1 条 この仕様書は磐南浄化センターから排出する焼却灰（ばいじん）（以下「焼却灰」という）を収集運搬し、資源化等有効利用（セメント原料化）による適正処理を図ることを目的とする。

（焼却灰の性状等）

第 2 条 焼却灰の性状等は以下の表のとおりとする。

項目	内容
産業廃棄物の種類	ばいじん
焼却灰の形状	固形
姿荷	バラ
排出予定量	年間 200 t（乾灰）
重金属の有無	有（有害物質等はなし）
特性	特に無し

2 発注者は必要に応じ、焼却灰に関する情報を受注者に提供する。

（業務の履行にかかる留意事項）

第 3 条

- (1) 搬出にかかる車両は、監督職員または磐南浄化センターの維持管理を受託している担当職員と協議のうえ計画的に配置する。
- (2) 車両への積込み及び数量の確認は、監督職員または磐南浄化センターの維持管理を受託している担当職員と協議のうえ計画的に配置する。
- (3) 運搬には、焼却灰や臭気が外部に漏れないよう適切な措置をする。
- (4) 運搬途中においては、積替え及び他の廃棄物との混載をしてはならない。
- (5) 業務履行には、法令（道路運送車両法・道路交通法・労働安全衛生法等）及び磐田市と地元が締結している協定書・覚書等を遵守する。
- (6) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律、日本下水道事業団の契約書及びその他関係法令の規定を遵守する。

（搬出時期 等）

第 4 条 搬出は、原則、月曜日～金曜日とし月 2 回の予定、1 回あたりの排出重量は約 7～8 トン（乾灰）を想定しているが、焼却灰の処理量は下水汚泥の作製状況等によるため変動がある。

また、汚泥焼却炉の定期点検・修繕工事（約 20～30 日、9 月初旬～11 月下旬頃を予定、別途協議）及び突発的な故障等で、焼却炉の停止時には搬出を休止する場合がある。

(業務責任者)

第5条 受注者は業務上の責任者を選定し、速やかに発注者に届け出なければならない。

(報告)

第6条 受注者は搬出月の処理実績量を所定の様式により、翌月の5日までに発注者に報告する。

(数量の確認)

第7条 数量の確認は、発注者が承認する計量法に基づく計量施設により受託者が計量するものとし、その記録(数量及び写真)を添付する。

(関係書類の提出)

第8条 受注者は産業廃棄物処理契約締結後、速やかに必要な書類を発注者に提出する。

- (1) 運搬車両の車両番号、積載量
- (2) 産業廃棄物収集運搬及び処分許可書の写し
- (3) 運搬経路、運搬距離

(焼却灰処分)

第9条 当該焼却灰は、再資源化等による有効利用を推進すること。

(本業務委託料の支払い)

第10条 本業務委託の委託料の支払方法については、日本下水道事業団規定による。

(その他)

第11条 記載のない事項については、その都度、監督職員と協議にすること。

廃棄物データシート(WDS)

※1 本データシートは廃棄物の成分等を明示するものであり、排出事業者の責任において作成して下さい
※2 記入については、「廃棄物データシートの記載方法」を参照ください。

作成日 令和5年 11月 8日

記入者 鈴木秀俊

Table with 8 rows and multiple columns. Row 1: 排出事業者 (名称: 日本下水道事業団, 所在地: 〒461-0025 名古屋市東区徳川1-15-30, 所属: 東海総合事務所磐田分室, 担当者, TEL: 0538-66-7412, FAX: 0538-66-7411). Row 2: 廃棄物の名称 (磐田市公共下水道終末処理場 下水汚泥焼却灰(乾灰)). Row 3: 廃棄物の組成・成分情報 (主成分: 灰分 98.60%, 他; MSDSがある場合、CAS No.). Row 4: 廃棄物の種類 (汚泥, 廃油, 廃酸, 廃アルカリ, その他(ばいじん); ※ 廃棄物が以下のいずれかに該当する場合: 石綿含有産業廃棄物, 水銀使用製品産業廃棄物, 水銀含有ばいじん等). Row 5: 特定有害廃棄物 (アルキル水銀, 水銀又はその化合物, カドミウム又はその化合物, 鉛又はその化合物, 有機燐化合物, 六価クロム化合物, 砒素又はその化合物, シアン化合物, PCB). Row 6: PRTR対象物質 (届出事業所 (該当・非該当)、委託する廃棄物の該当・非該当 (該当・非該当); ※ 委託する廃棄物に第1種指定化学物質を含む場合、その物質名を書いて下さい). Row 7: 水道水源における消毒副生成物前駆物質 (生成物質: ホルムアルデヒド(塩素処理により生成), クロロホルム(塩素処理により生成), 臭素酸(オゾン処理により生成), ジブロモクロロメタン, ブロモジクロロメタン, ブロモホルム(塩素処理により生成), 臭化物(臭化カリウム等)). Row 8: その他含有物質 (硫黄, ヨウ素, 硝酸, 銅, ホウ素, 塩素, フッ素, 亜鉛, アルミ, その他(鉄、リン、カリウム), 臭素, 炭酸, ニッケル, アンモニア).

9	有害特性 (有・ <u>無</u> ・不明)	<input type="checkbox"/> 爆発性 <input type="checkbox"/> 引火性( °C) <input type="checkbox"/> 可燃性 <input type="checkbox"/> 自然発火性( °C) <input type="checkbox"/> 禁水性 <input type="checkbox"/> 酸化性 <input type="checkbox"/> 有機過酸化物 <input type="checkbox"/> 急性毒性 <input type="checkbox"/> 感染性 <input type="checkbox"/> 腐食性 <input type="checkbox"/> 毒性ガス発生 <input type="checkbox"/> 慢性毒性 <input type="checkbox"/> 生態毒性 <input type="checkbox"/> 重合反応性 <input type="checkbox"/> その他( )
10	廃棄物の物理的 性状・化学的性状	形状( ) 臭い( ) 色( ) 比重( ) pH( ) 沸点( ) 融点( ) 発熱量( ) 粘度( ) 水分( )
11	品質安定性	経時変化(有・ <u>無</u> )有る場合は具体的に記入
12	関連法規	危険物(消防法)・特化則(特定化学物質障害予防規則)・有機溶剤・毒劇物・悪臭
13	荷姿	<input type="checkbox"/> 容器( ) <input checked="" type="checkbox"/> 車両( ) <input type="checkbox"/> その他( )
14	排出頻度 数量	頻度(スポット・ <u>継続予定</u> ) ( 15 ) kg (t) / 日・m <sup>3</sup> ・本・缶・袋・個 / 年・ <u>月</u> ・週・日
15	特別注意事項 (有・ <u>無</u> )	<p>※取り扱う際に必要と考えられる注意事項を記載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避けるべき処理方法、安全のため採用すべき処理方法</li> <li>・他の廃棄物との混合禁止</li> <li>・粉じん爆発の可能性</li> <li>・容器腐食性の可能性／注意点</li> <li>・廃棄物の性状変化などに起因する環境汚染の可能性</li> <li>・環境中に放出された後の支障発生の可能性(消毒用塩素等との反応により他の物質を生成し、水道取水障害に至る可能性等) 等</li> </ul>

【参考】 その他の情報

- ・ サンプル等提供 ( 均一サンプル有 ・ 不均一サンプル有 ・ サンプルの一部有 ・ サンプル無 ・ 写真有 )
- ・ 産業廃棄物の発生工程等  
「3廃棄物の組成・成分情報」を推定する根拠となる、使用原材料・有害物質・不純物の混入、排出場がわかる発生工程の説明を書いてください。 工程前からの持ち込み成分があれば書いてください。 工程図への記入でも可。  
(処理業者においては、不純物混入の可能性や廃棄物成分のブレ幅の推定、分析頻度等の判断材料となります。)

<排出事業者及び処理業者内容確認欄>

No.	内容確認日時	排出事業者担当者	処理業者担当者	備考

<変更履歴>

No.	変更日時	排出事業者担当者	処理業者担当者	変更内容